

原発のある町に住んで

小畑 哲男

原発銀座と云われる福井県の若狭地方、細長い東西約80kmの地域に4か所の原発があり、炉の数13基、総発電量は約1,125万kwで、私の家から直線で7kmのところある大飯発電所（4基470万kw）はこの地域で一番大きな発電所です。

昭和44年に誘致が決まり54年に1,2号機の営業運転が始まった10年間には、町を二分する混乱（町長リコール、建設中止の議案まで提出等）がありました。

原発は半島の突端にありますが、建設が始まると入江に800mの橋が架かり、広い道路が出来、それまで船で30分くらいかけて行っていたところが、車で行けるようになりました。原発周辺は、ほとんどの家が漁師で、その漁業補償金で、民宿を兼ねた新しい家が建ち、辺りの環境は一変しました。

原発のお陰で、町の財政は黒字で、集落への住民活動助成金、農家に対しては、他では無くなった休耕田に対する助成等続いています。他の福祉の面でも、立地していない自治体よりはちょっとは優遇されているのではと感じます。また工事に伴う土砂で、海を埋め立て、綺麗な公園や各種文化施設も作られました。町にとっては原発は雇用の上でも欠かせないものとなっています。

ところで、「お前は原発の再稼働に賛成か反対か？」と聞かれることがあります。既にある原発についてはとにかく寿命が来るまで使い切るべきと云う条件付き賛成です。わが町の加圧水型は、全電源停止という事態になった場合でも対応がしやすいのではと、無責任と言われるかも知れませんが、思っています。立地の住民としては、使用済み核燃料が発電所内で簡易保管されている限り、発電量の0,1%の熱が発生しているため、稼働中のものに比べれば少ないですが、危険はあるわけです。我が国の原発は既に40年以上の経験を積んで来ているわけで、何万年、何十万年に一度起こるかも知れない地震、津波がこの20,30年のうちに起こること想定して何もやらないことの方が問題ではないでしょうか。

そもそもウランの核燃料サイクルの原子力発電を始めたのはアメリカで、第2次大戦後ウランで行くかトリウムで行くかの検討が為された時、ウランで行けばプルトニウムが生成され、原子爆弾の材料になるからということであったということを20年ほど前に本で読んだ記憶があります。トリウムについては各国で研究は行われているようですが、高熱対策が難しいようで、実験的な発電は出来ても商用までには至っていないようです。話として、日本は3か月あれば原爆を作れるということを聞きますが、使用済み核燃料をもっていることが抑止力になっている気がします。ウラン核燃料サイクルをコントロールする技術を持つことは、国の安全保障上不可欠ではないかと思います。

我が大飯発電所も新基準に適合のお墨付きを貰い、間もなく再稼働すると思いますが、7年間近くにわたる発電停止は、町の経済にも大きく影響しています。稼働後は13か月経つと炉を停止して、3か月間の定期点検があり、民宿が賑わう時です。原発に大きく依存している我が町です。時々再稼働反対のデモがありますが、大阪、京都辺りから日当目当で来ている人達がほとんどのようで、違うところから来た人たちがお互い日当の話をしているということもあるようです。

我が町は原発無しではやっていけない町です。原発はただ電気を起こすということだけではなく、国の安全保障上の役目も担っていると考えます。福島の実績を踏まえ、より安全な発電ができると確信しています。

私が高校を卒業した頃には、わが町に原発が出来るという話は全くありませんでした。もしあれば迷わず原発がらみの職に就くべく努力したと思います。今の状況では、将来どんどん原発が増えると言うことは難しいと思います。ただ核燃料サイクルの技術を育み持っておく必要はあると思います。現在その一端を我が町も担っていることを誇りに思っております。

(以降の概要と地図は、ホームページから引用し、事務局で追加させて頂きました)

○ 大飯発電所の概要



号機	原子炉	定格出力	運転開始
1号機	加圧水型軽水炉 (PWR)	117.5万kW	昭和54年3月
2号機		117.5万kW	昭和54年12月
3号機		118万kW	平成3年12月
4号機		118万kW	平成5年2月

大飯発電所は4基合わせた総出力が471万kWあり、発電量としては関西電力で最大の発電所です。若狭湾国立公園内に属し、周囲を壮大な自然に囲まれています。大飯発電所ではこの美しい海や緑など自然環境を損なうことのないよう積極的に環境保全対策を進め、緑地の復元にも努めています。

